



議会だより

かたしな

発行 片品村議会

No. 151

2017. 1. 20



片品村で初となる中学生議会が開催される

主 な 内 容

- ◆ 第5回定例会（12月議会）で決まったこと …………… 2～3
（一般会計及び特別会計補正予算・条例一部改正等）
- ◆ 一般質問・常任委員会、常任委員会視察報告 …………… 3～7
- ◆ 議員OBの声、議案内容及び議決一覧、議会活動等 …………… 8～10

村政を問う!

般質問



後藤 眞平 議員

問 平成28年度、上半期の財政概要について聞きたい。

答 (村長)

平成28年度、上半期の財政概要は、一般会計における予算の執行状況が、予算額41億4百84万4千円に対して、収入済額20億9千17万円、執行率50.9%、支出額は13億5千8百17万5千円、執行率は33.1%になっています。なお、村税の収入状況は一部懸案である大型レジャー施設を除いては、前年度に比べ現年度分も

0.7%、過年度分では0.4%の増収となっています。これら一般会計に6特別会計を含んで全体として計画通り順調に執行されている状況です。

問 就任時と現在の財政状況の比較について聞きたい。

答 (村長)

私が就任したのは、平成17年11月であり、全国、とりわけ地方は、合併問題の渦中にありました。片品村においても住民投票の結果を踏まえ、自主自立の道を歩み始めたところであり、経常経費ですらまともに組めないなど、財政立て直しが急務でありましたが、皆様のご協力により少しずつ改善がなされています。その結果、低負担高

福祉の充実、村の基幹となるインフラ整備、そして、近年は小学校建設やバス無料化などにも取り組んでいます。

就任当時と現在の比較ですが、起債額は減少し、貯金である財政調整基金については、7億2千万円ほど増加しており、明らかに財政状況の改善が図られています。

問 今後の財政について聞きたい。

答 (村長)

今後展開する(仮称)片品村交流連携拠点施設整備の事業や片品中学校の改築事業などのハード事業の財源見通しは、国庫補助金、基金、起債などを予定しています。起債については、両事業とも70%が交付税算入される有利な過疎対策事業債を活用する予定です。

なお、両事業が終了した後には、村営住宅の整備やインフラ施設の村道改修、橋梁の耐震化なども優先順位の検討を行っていきたいと、考えています。

問 平成29年度の予算について聞きたい。

答 (村長)

平成29年度の予算編成にあたっては、昨年度策定された第4次片品村総合計画及び片品村「むら・ひと・こと」創生総合戦略などの計画を十分に踏まえて、村民との協働や活動支援などを通じて潜在する地域力が最大限発揮できるように、全庁を挙げて国・県等の補助金制度を有効活用し、内部経費の節減や行政改革を進めることなど、職員一人一人がコスト意識を持つことなどを指示し、取り組んでいきます。

請願審議決果

12月定例会において審議された請願は、下記のとおり決定しました。

受理年月日	件名	請願者	付託委員会	審議結果
平成28年11月2日	『スノーパル・オグナほたか』人工降雪の施設整備に関する請願	第三区長 星野 光三 武尊民宿組合 組合長 星野 光義 武尊ペンション協会 会長 桂田 直樹	観光産業 常任委員会	採択

討議しました

総務文教常任委員会

協議事項

所管事務について

一、中学校建築について

問 中学校建設費として、今回3九年の継続費で補正予算が計上されているが、各年度別の事業計画について伺いたい。

答 (教育長)

継続費に計上してある3九年の年割合計額は、校舎建設費・臨時校舎リース代・現校舎解体費の合計額です。28年度の予算額については、この3つの工事費(リース代含む)の前払分で工事費の4割の金額です。29年度及び30年度については、残りの6割に相当する部分を2分の1ずつに分けて、年割額にしたものです。



新片品中学校の完成予想図

本体工事の具体的な進め方については、金額が大きく、小学校建築と同様に特定建設工事となるため、指名業者の選定協議を行ない、2月上旬に指名業者資格審査委員会等に諮り、可能であれば2月中旬に入札を執行し、3月に契約議決をお願いいたします。

答 (教育長)

臨時校舎の建築と解体工事については、28年度で交付決定をいただいているため、2月中旬に入札、本体と同様に3月に契約議決をお願いしたいと考えています。また、臨時校舎の入札については、3社程度を指名し行う予定です。

問 今の中学1年生は、1年間が現片品中学校に通っているが、片品小学校出身の生徒たちは、その前の2年間、北小学校に通っていて、今後2年間、臨時校舎ということ、非常に負担がかかってくるので、生徒たちのケアについて考えていただきたい。

答 (村長)

そのことについては、学校とも協議をしております。臨時校舎でも使用できるものとして、備品、机、椅子について新しいものを導入していく予定であるため、

多少は新しい雰囲気味わっていただけるのではと思います。

二、インターハイの進捗状況について

問 インターハイの準備等の進捗状況について伺いたい。

答 (教育委員会事務局)

12月2日にアルペン競技関係の運営会議が、12月4日にはジャンプ競技の打合せ会議が開催されました。また、9月の補正予算でお願いした無線機ほかについて、早速購入させていただきました。準備しました。

(委員長 萩原正信)



第66回全国高等学校スキー大会のポスター

委員が慎重に

観光産業常任委員会

協議事項

一、請願について

【第1号】

スノーパル・オグナほかの安定的な積雪量を確保できる人工降雪施設整備を求める請願

意見

この件は、第三区だけの問題でなく、片品村の将来に対して経済や雇用、観光振興において重要な問題である。また、人工降雪の施設は水源が重要であるが実現可能なのか、あるいは実現不可能なのかを見極めるためにも、まず調査を行い、その調査結果に基づき、村民の理解と協力を得て慎重に進めることが大事であることから、調査を行うことを前提に、今回の請願には全員賛成で採択とする。

二、平成28年度補正予算について

問 若者雇用創出事業の減額の内訳は。

答(むらづくり観光課長)

内閣府からの推進交付金の減額に伴いますが、採択された事業は優先順位を付

けて実施します。

問 簡易水道の修繕費を計上しているが、老朽化が進んでいるのか。

答(農林建設課長)

緊急の修繕はありますが、老朽化で布施替えが必要な箇所はありません。

三、所管事務について

問 現在、学校橋の補修工事を行っているが、今後の整備予定は。

答(農林建設課長)

平成25年から5カ年計画で国の補助制度(補助率65%)を利用して、橋の長寿命化に取り組んでいます。国の補助制度が継続すれば、



下部工の補修が済んだ学校橋

新たに平成30年から5カ年計画で進めたいと考えています。

問 除雪(大雪)や災害が発生した場合に、村民の生命と財産を守る役割を担っている建設業者が、人員や資機材の維持に最低限必要な工事量「限界工事量」の確保について、村はどう考えているか。

答(農林建設課長)

村でも災害発生時や水道管の破損など、建設業者に頼っていますが、村、県、国の公共事業量は年々減少傾向にあるので、民間の需要も含めて、必要なインフラ整備を行いながら、慎重に検討していききたいと思えます。

問 村内において、民間企業が小水力発電事業を行う計画があるか。

答(農林建設課長)

花咲の西俣沢と土出の車沢の2カ所で検討していることを承知しています。

問 緑の県民税を利用して、道路沿いの不要な立木の伐採整備はできないか。

答(農林建設課長)

現状ではできませんが、制度改正等あれば、今後、

検討したいと思えます。

問 村内の広告看板等の統一性が無く、景観上良くないという意見があるが。

答(むらづくり観光課長)

120号線ロマンチック街道が平成13年に、群馬県より景観保全型広告整備地区に指定され、看板などの屋外広告物は、県に届出の義務付が必要となりました。村内でも、平成9年に策定した花の谷景観計画により広告看板の規制を行っていますが、周知されていないのが現状です。看板等の設置及び撤去には補助制度もあるので、再度広報等で村民に周知し、景観保護のために指導していききたいと思えます。

四、その他

問 サエラの駐車場内に、太陽光発電所の計画があるのか。

答(村長)

計画はありますが、駐車場の中に、村の赤線があるので、隣接地権者の考え方を聞いて、多くの賛同を得た中で対応したいと考えています。

(委員長 後藤眞平)

総務文教常任委員会

～行政視察報告～



芸西村文化資料館視察の様子

■視察の期日

平成28年10月18日～20日

■視察の場所 ①徳島県勝浦町 ②高知県芸西村

■視察の目的

- ①少子高齢化に対応する取組や通年議会を行っている勝浦町を視察し、片品村の今後の行政運営に役立てるため。
- ②住民のための文化施設及びスポーツ施設が整っている芸西村の施設を視察し、片品村の今後の文化施設・スポーツ施設の整備の参考とするため。

■視察の概要

①勝浦町は、人口5,600人の気候温暖なまちで、古くから阿波みかん栽培発祥の地として知られ、東西に流れる勝浦川兩岸の山腹に広がる栽培地は、徳島県の主要産地であり、町の木としてみかんが指定されています。

②芸西村は、北東西の三方を山で囲まれ、南側は雄大な太平洋に面している温暖な気候に恵まれた、人口4,000人の村です。村の面積は、片品村の10分の1ですが、伝統文化を伝承する文化施設や、村民の健康増進を進めるスポーツ施設などが整備されています。

■視察の結果

①勝浦町は、健康かつうら21として、平成28年度から平成37年度の10年間の計画を策定し、町民のさらなる健康増進をめざし、ライフステージに応じた健康づくり、食育の推進に向けた取り組みが進められています。特に、生活習慣病の予防や、健やか親子などの健康課題に取り組んでいるそうです。片品村においても近年では、特に心臓に関係する循環器疾患が多く、生命



ふれあいの里さかもと視察の様子

に影響を及ぼすこともあり、細やかな予防医療の取り組みが必要であると感じました。

少子化対策の推進状況については、平成25年から、少子化対策としての子育て支援事業が推進されています。その事業の一つとして、町の単独事業で各保育所に看護師1名が配置されています。安心して預けられる保育園として、片品村でも看護師の設置は検討する必要があると感じました。

お話し暮らし定住施設の取り組み状況については、平成26年12月より、坂本グリーンツーリズム運営委員会を実施主体に、総事業費1,000万円をかけて空き家1軒を再生、活用し、運営が開始されました。そして、現在まで、多くの実績を上げています。

廃校舎利用状況については、過疎化・少子化により閉校となった校舎を活用するための研究・検討がなされ、農林水産省の事業を活用し、事業費1億1,827万円をかけて整備され、平成14年3月に「ふれあいの里さかもと」としてオープンしました。施設の利用者は、毎年12,000人程度で推移しているとのこと。

通年議会については、勝浦町議会の議員定数が、人口減少、行財政改革の推進のなかで定数減を続け、平成19年の改選では半数の10人に減り、その結果、2つの常任委員会が5名ずつの構成となり、重要課題について十分な審議ができない、あるいは、1人の意見にながされるなどの弊害が生じたことから、全て本会議で審議、対応してはという意見があり常任委員会を廃止し、本会議主義に移行されました。

また、「通年の会期制」は目新しく、導入すれば四国初となり全議員のモチベーションも上がることや平成24年9月の地方自治法の改正により、条例による「通年の会期制」の選択が可能となったことから、実施に向けての検討がされ、平成25年に通年会期制を導入し、

町民が親しみやすい「マラソン議会」のネーミングで議会が開かれています。

片品村においても、現在定数が12名であり、常任委員会の在り方について、今後検討していく必要があると感じました。

②芸西村では、昭和40年代当時の村長が住民の健康づくりと福祉の増進を進めるため、スポーツ施設などを整備するための用地を取得し、昭和48年にサッカークラブの使用も可能な400mトラックの陸上競技場の整備をスタートに、現在までに、運動広場・村民体育館・柔剣道場・テニスコート・芸西村の家を整備し、憩ヶ丘運動公園として地元中学生など多くの村民に利用されています。また、文化施設として役場庁舎隣に、芸西村文化資料館・生涯学習館が併設され、伝統文化の継承や文化の交流のための施設として村民に活用されています。片品村においても、将来的に総合運動施設整備計画を進めるためには、広大な用地が必要であり、まずは、用地取得の計画をする必要があると思います。また、文化施設についても、先人が築いた片品村の歴史を展示できるような施設整備も必要であると感じました。

観光産業常任委員会

～行政視察報告～



富良野市役所では先進的な観光と農業振興について視察

■視察の期日

平成 28 年 9 月 27 日～ 29 日

■視察の場所 ①北海道富良野市

②北海道八雲町

■視察の目的

①恵まれた自然条件の下、先進的に観光振興や農業振興に取り組んでいる富良野市を視察し、片品村の観光客の減少対策及び農業振興対策に役立てるため。

②恵まれた立地条件の下、先進的に人口減少対策や農業振興に取り組んでいる八雲町を視察し、片品村の人口減少対策及び農業振興対策に役立てるため。

■視察の概要

①富良野市は、北海道の中央部に位置し「へそとスキーとワインのまち」として農業と観光を基幹産業に発展している市です。

清流空知川がもたらす肥沃な大地からは、品質の高い農産物が生産されています。

テレビドラマ「北の国から」のロケ地として全国的に知名度が上がり、年間を通じて多くの観光客が訪れています。

②八雲町は、日本で唯一、太平洋と日本海を持つ町で、木彫り熊発祥の地、バター館の元祖地としても広く知られています。

また、立地は農業、漁業に適しているとともに、太平洋と日本海を望む景観、内陸部の牧歌的農村風景の素晴らしい町です。

■視察の結果

①農業と観光を基幹産業に発展している富良野市は、農業生産地帯の作物補完や農家の自立経営を目標に、稲作転換事業の一環としてワイン用ぶどうの栽培にいち早く取り組み、市が事業主体となり昭和52年にワイン工場が建設され、原料用のぶどうの生産、ワインの醸造、販売までの一元化さ



富良野市議会で説明を受ける様子

ら将来において重要な形となる広域連携型で通年滞在型の観光を実現しています。片品村が現在進めている利根沼田地域や栃木県日光市、福島県檜枝岐村などの広域連携型観光に取り組む上でも大いに参考になりました。

②八雲町は、平成17年度に移住促進のための戦略づくりを実施する「八雲町移住推進協議会」が結成され、町ぐるみの応援体制が構築されました。

特に、平成19年度から旧教員住宅をリフォームした物件等を活用した短期生活体験事業を推進しており、町に移住するきっかけづくりを行い、多くの利用実績を残しています。

しかし、利用希望者が増えてきたことから平成26年度に増築して対応しているとのこと。さらに、移住希望者のための総合パンフレットを平成18年度に作成し、移住希望者のニーズに合った政策をいち早く行っており、まち・ひと・しごと総合戦略も併せた施策により人口減少対策に取り組んでいます。これらのことは、今現在、片品村が行っている移住、定住の促進事業を実施していくうえで、大いに参考になりました。

また、農業においては、酪農、水稲と軟白ネギ・花キの複合経営、野菜栽培な

どが盛んに行われ、経営耕地の面積は6,690haと片品村の約9倍ですが、販売農家戸数は25戸で片品村の1.4倍でしかありません。このように北海道の広大な大地を利用した大規模経営が行われ農地集積率は80パーセントを超えています。

町内の山間地域では、施設園芸作物が重要な位置を占めており、温泉熱を活用したトマト栽培等に取り組んでいます。

新規就農者対策では、町独自の貸付制度を設け、5年間営農を継続した場合には償還金を免除するなどの支援を行っています。

これらの取り組みは、片品村が今後各種農業施策を展開していくうえで、参考にすべき事例も多く、今後の農業振興に結びつけられればと思います。



素晴らしい景観と農業と漁業に適した立地の八雲町

初の中学生議会 開催される

11月22日（火）片品村では初となる中学生議会が、役場2階議事堂において開催されました。

この中学生議会は、片品村の将来を担う中学生が議会の模擬体験を通じて、村民生活と行政との関わりや、村が直面するさまざまな課題について考えてもらうためや、選挙権の年齢が満18歳以上に改められたことを踏まえ、議会の役割及び地方自治や民主主義の仕組み、さらには村の取り組みについて学習することを目的に開かれたものです。

この日は、片品中学校の3年生42名が16のグループに分かれ、「観光」「産業」「福祉」「子育て・教育」等の村政課題について一般質問を行い、総合学習での授業で学んだ村の課題や取り組みについて、大人顔負けの提案や質問を投げかけていました。

また、これらの提案、質問に対して、千明村長及び星野教育長が現状の取り組みを分かりやすく答弁し、村議会さながらの中学生議会となりました。



中学生議会の様子

町村議会議員研修会

平成28年10月28日（金）吉岡町文化センター

- ① 自助・近助・共助でつくる災害に強いまちづくりについて
講師 防災システム研究所 所長 山村 武彦 氏
- ② ”動乱の21世紀を読み解く” 中国の台頭と日米同盟について
講師 外交ジャーナリスト・作家 手嶋 龍一 氏

以上について、2名の講師から大変わかりやすい講演をしていただきました。



町村議会議員研修会の様子

日光市議会との交流会実施

平成28年11月10日（木）、日光市議会・片品村議会交流会が日光市議会の議長、副議長、各常任委員会正副委員等をはじめとする12人の議員と片品村の議員11名が出席し、片品村役場研修室において行われました。

交流会では、金精道路の通年通行、観光振興の連携等について、冬期間の道路閉鎖期間の短縮や道路の安全対策等の実現、あるいは、両市村を体験できる林間学校の企画作成、両市村の観光イベントの連携等について意見交換を行いました。

その結果、両議会では今後も金精道路通年通行期成同盟会や交流会を通じて相互に強力体制を強化し、行政及び関係機関へ働きかけていくことになりました。



日光市議会との交流会の様子

檜枝岐村議会との交流会実施

平成28年10月5日（水）、檜枝岐村議会・片品村議会交流会が栃木県宇都宮市において行われ、次のような協議が行われました。

まず、国道401号線道路改良整備促進については、今後も両村だけでなく期成同盟会の構成市町村、関係者が一体となって、未改良区間の早期解消に向けて国に要望活動をしていくことを確認し合いました。

また、観光については、両村の観光産業の活性化を図るため、広域観光の視点から、今年度、片品村の収穫祭で上演していただいた檜枝岐歌舞伎のような企画を今後も研究する必要性等について意見交換を行いました。



交流会に参加した両村の議員

議会活動日誌

10月

28日 群馬県町村議会議員研修会

11月

3日 尾瀬文学賞俳句大会表彰式

〃 文化展表彰式

6日 道路愛護巡回督励

9日 町村議会議長全国大会

〃 豪雪地帯町村議会議長全国大会

10日 日光市議会との交流会

18日 議会運営委員会

〃 議会全員協議会

22日 片品村中学生議会

25日 群馬県知事と町村議長との懇談会

12月

2日 片品村降雪安全祈願祭

〃 第5回議会定例会（12月議会）開会

〃 補正予算説明会

〃 第1回議会広報編集委員会

6日 観光産業常任委員会

〃 総務文教常任委員会

〃 学校給食試食会

9日 第5回議会定例会（12月議会）閉会

〃 第2回議会広報編集委員会

12日 ホワイトワールド尾瀬岩鞍安全祈願祭

17日 スノーパーク尾瀬戸倉安全祈願祭

1月

6日 消防団出初め式

〃 新年賀詞交歓会

〃 第3回議会広報編集委員会

8日 片品村成人式

17日 群馬県市町村トップセミナー

発行
片品村議会

責任者

星野

千里

編集

議会広報編集特別委員会

印刷所

笠原印刷(有)

かたしなフォトギャラリー



尾瀬文学賞俳句大会表彰式



片品村成人式

○傍聴のお知らせ

3月議会を傍聴しませんか！

次回定例会は、3月2日（木）の予定です。

一般質問は、開会初日です。なお、一般質問の質疑応答（全文）は片品村公式ホームページ（HP）にて閲覧できます。HP掲載写真はフルカラーです。

URL <http://www.vill.katashina.gunma.jp/>

議会広報編集特別委員会

委員長	星野	精一
副委員長	今井	功
委員	星野	千里
委員	星野	逸雄
委員	高山	悦夫
委員	千明	勉

編集委員長 星野 精一

議会の大切なつとめとして、行政のチェック機関としての役割があります。さて、それでは議会や議員をチェックするのは一体誰でしょうか？そう考えると私たち議員ひとりひとりには、高い志と高潔な態度をもって自らを厳しく戒め「利己」を抑え「利他」を追求しなければなりません。しかしそれが容易ではないことは、連日のメディアを騒がせる地方議員の不祥事や説明責任を果たせない政務活動費の使い道などが、物語っているのではないのでしょうか。

私たちは一度立ち止まり、「公に奉仕する」とはどういうことなのかをしっかりと深く思索する必要があります。議会と議員の一番のチェック者は読者のみなさん、すなわち村民ですね。皆さんが議会をきびしく注視し、それを次の投票に結びつけてこそ、議会と村政は次のステップに進めると確信しています。

編集後記